

各分野で活躍する田原市出身の方を不定期でご紹介します。

おお た けん

太田剣さん (福江町生まれ)

ジャズサクソプレーヤー・作曲家・プロデューサー

●福江小学校・福江中学校で少年期を過ごし、早くからピアノ、トランペット、サクソに親しむ。早稲田実業学校高等部に入学し、吹奏楽部でクラシック音楽を演奏しつつ、ジャズに開眼。早稲田大学に入学し、さまざまなアーティストとの交流やレッスンを通じて、ジャズの見聞を広める。大学卒業後、国内ジャズ・シーンで頭角を現し、2003～2006年にはカーオーディオメーカーのCMにも起用される。2006年自身のファーストアルバム『Swingroove / 太田剣』リリース。現在、東京でのライブ活動を中心に、レコーディングセッションへの参加やプロデュースワークを行っている。

▶公式サイト <http://kenota.net/>



少年時代、伊良湖でジャズと出会う

— 子どものころの思い出は？ —

【太田さん】 福江で自然に囲まれ、のんびりと好きなことに打ち込んでいましたね。祖母が作ったトウモロコシを食べたり、セミやトンボを追いかけたり、四季を感じながら生活していました。太平洋や三河湾に面する温かな土地柄なので、物事を素直に感じる性格はこの地で培われたものだと思います。

— これまでの道のりは？ —

【太田さん】 ジャズとの最初の出会いは、父が勤めていた伊良湖ビューホテルで藤家虹二さん（ジャズ演奏家）のクラリネットを聞いた時です。中学校からギターを始めるつもりでしたが、この夜の感動からサクソを手にしました。大学入学後にジャズを始め、卒業後、プロのミュージシャンとして活動しています。音楽を仕事として生きていくということは、想像よりもはるかに大変で、自分のセンスをアツプデートしていきながら、日々の演奏に勝負をかける険しい道なのですが、いろいろな瞬間に感じるこの上ない喜びは、自分にとってかけがえのない大切なものです。

— 活動にまつわるエピソードをぜひ。 —

【太田さん】 ロックやポップスなどと異なり、同じメンバーでのバンド活動がまれなジャズは、さまざま



まなミュージシャンと共演を繰り返し、互いの感覚を受容し、アピールしながら高め合っていくものです。ですから、自分が居場所や演奏ジャンルを限定せず、オープンな気持ちで居られれば、さまざまな音楽のスペシャリストと接することが出来ます。矢沢永吉さんのバンドに呼んでいただいた時に、リハーサルでも本番さながらの集中力とパフォーマンスで臨む矢沢さんのプロとしての姿には、心底シビれました。また、映画『デイズ・イズ・イット (Days Is It)』で見たマイケル・ジャクソンの姿も同じで、やはり多くの人を感動させるアーティストは、才能におごることなく努力を続けているのだと実感し、自らの音楽人生への決意に大きな力をもたらした気がします。

— 田原市へメッセージを。 —

【太田さん】 渥美半島で育ったことは僕の人生の幸せの一つで、今も愛する故郷ですから、この土地とそこに住む皆さんが受け継いで来た伝統や慣習を大切にしながら、未来へ向けて発展されることを願っています。僕にとってジャズを始めるきっかけとなった人との出会いがあったように、今度は僕が、この地でこれから大人になっていく若者に今生きる音楽を示し、現在の田原市を支える皆さんにとって、少しでもその心の糧となるような演奏が出来たらいいなと思います。これからも精進し、素晴らしい音楽の創造にまい進していきたいと思えます。そしてまた、故郷の田原市で演奏できるよう頑張ります。応援よろしくお願いします。



◆ 2004年2月には、田原文化会館で“凱旋ライブ”を行った。